

V220a SuMIRe-PFS[26]: PFS による共同利用観測の枠組み

田中賢幸, 小野寺仁人, 石垣美歩, Wanqiu He, 小池美知太郎, Eric Jeschke (国立天文台), 矢部清人, 田村直之 (東京大学), 他 obsproc working group メンバー

PFS は 2394 本のファイバーを持つ多天体分光器で、サーベイ効率の極めて高い観測装置である。現時点では S23B からの一般共同利用観測を予定していて、そのサーベイ能力を最大限活かせる観測の枠組みを準備する必要がある。一つの観測プログラムが全てのファイバーを有効活用できるという仮定は、必ずしも成り立たないと我々は考えていて、各露出で複数のプログラムにファイバーを割り当てる 'fiber sharing' を基本とした枠組みを、現在までに検討してきている。これは今までのすばるの観測モードにはないやり方で、多くの新しい技術的・ポリシー的問題を解決する必要がある。本講演では、この PFS 観測の枠組みの現状を紹介し、様々な問題についての検討状況を報告したい。また、PFS ではリアルタイムにデータの品質評価を行う必要があると考えていて、品質評価の手法、シーイングや大気透過率といった評価すべき項目、さらにそれらを観測時に表示する観測ログシステムについても紹介したい。